

## NIF 主催 JAPANTEX'96 コンセプトゾーンを共同企画で推進

### 概要／体制／スケジュール

N.I.F.主催 JAPAN TEX'96 (平成8年1月24日—27日)晴海  
コンセプトゾーンをN.I.F.とT.D.A.の共同企画で行うことに決定。  
今年の事業部の大きな事業の一つとして企画してきましたが7月  
正式に決定しました。既に8月にN.I.F.より業界紙に発表されて  
います。

#### [テーマ] インテリアテキスタイルデザイン「WAVE」

戦後50年の区切りとして業界及びデザインの周辺の記録を残す  
と共に、過去の流れから未来を展望することが狙い。テキスタイル  
デザインウェーブは三つの要素で構成します。

- '60～'95ドキュメント映像と年表
- テキスタイルデザイントレンド '96—'97 現物の生地とマップによ  
り表現
- デザインギャラリー 今回は栗辻博氏遺作展

#### [T.D.A.としての運営推進の体制]

上野理事長を実行委員長として理事全員で当る。実務的には  
事業部が中心となっていく。  
実行委員長代理——事業部大森常務理事

#### A. ドキュメント(年表)作りグループ

資料、情報集め全員、まとめ役、大森、近沢、杉山、福田、  
山崎、寺井

#### B. 会場構成、映像化など魚谷、桜井、今野

#### C. '96—'97トレンド 小川、魚谷、小沼、古屋、福田、今野、 中山

#### D. デザインギャラリー、桜井

#### E. ドキュメントの印刷物用ビジュアル化 桜井、今野、杉山、 古屋

#### [スケジュール]

10/11年表フォーマット作成→10/30年表完成

→11/30資料募集→映像化

→印刷物編集構成

'96—'97トレンド11/20完成→N.I.F.会員、T.D.A.賛助会員  
へ発送→12/10トレンドにフィットしたスワッチ提出→12/20

生地集め→会場レイアウト構成

写真集め→印刷物'96—'97トレンド

→映像用構成

### 企画内容

#### 1. インテリアテキスタイルデザインドキュメント'60～'95

インテリア第一世代 戦後復興、西洋化、近代化の波を受け、  
一生懸命学習しながら今日迄の生活基盤や産業基盤を築いてき  
た。過去を記録し、分析することによって明日が見えて来る。  
何を継承して行くのか、次世代へのHeritage元年としても捉えて  
行く。

一般的には戦後50年の節目を向かえています、インテリアテキ  
スタイル産業界にとっては、戦後の「大衆の住生活文化」の変遷を考  
えるとやっと一世代(約30年間)戦後復興の「バラック建築」「核  
家族化」「近代化」「西洋化」の大転換の中での創世期であったと  
言えます。見よう見真似で学習しながら新しいモノを体験してきた。  
しかし、個としてのモノの体験であり、そのモノがインテリア空間全体  
とどうバランスされるか又、空間全体にどう影響するのかなど、余り  
考えてはこなかった。産業側もこのモノを使うとどうなるかなど、モノ  
の周辺にまつわることを丁寧には説明してこなかった。モノ主体の産  
業、モノ主体の流通政策など、目先便利なモノやサービスの提供  
に追われ、駆け足で今日のマーケットを作ってきた。ソコソコの規模  
のマーケットにはなかったが、まだまだ他の産業との比較から見ても  
小さい。年代別に他のモノや物事との関わりを分析していくと、次  
の次代が見えてくる。「創成期→成長期」へ業界として、次の世代  
へ引き継ぐ為に、今いる人が形跡をしるしておく必要がある。  
この事業は業界全体の重要な事業の一つとして、先ずは年表作  
りと残っている資料の記録となるが、次の段階にはインテリアテキ  
スタイル博物館(ミュージアム)作りまで発展させたい。

#### 2. テキスタイルデザイントレンド'96-97

業界の活性化のイベントとして遅すぎた向きもあるが、今回より  
T.D.A.のメンバーとN.I.F.の企業内で活躍するデザイナーと協同  
で、総力を挙げて現在～1、2年先のトレンドを作成する。  
業界のイベントとしては、先ず最優先されるタイトルであるが、従来  
は色々の視点と切り口でトレンドを捉え、表現してきた。今回から  
はファッションの素材展のような捉え方で、オーソドックスに近未来  
のトレンドを発表。'96は現状の各企業の既商品化されたものを中  
心に展示。'97 TRENDSはスワッチをベースにパネルで表現する。

#### 3. デザインギャラリー「デザイナーのアピール」

時代がデザイナーを生み、デザイナーが時代を作る。過去のことを  
整理して行くと、その時代に輝いた、又はその時代を輝かせた人  
がいる。70年代のモダンデザインで国際的にも評価された栗辻  
博氏(H7年5月逝去)の作品を展示。テキスタイル産業の空洞化  
と共にテキスタイルデザインというソフトまで、空洞化していく恐れが  
ある。従来のデザイン活動は産業に片寄っている。産業と生活の  
間に立って、住生活を中心とした新しい生活文化を提唱して行  
ける若いデザイナーの人材育成の場としても、「デザインギャラリー」  
を運営して行く。今回は回顧的になりますが、将来は若手の発表  
の場にもしたい。